

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年12月7日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100690
法人名	株式会社ぶどうの木
事業所名	グループホームぶどうの木
所在地	鹿児島市中山町5286番地 (電話) 099-821-1011
自己評価作成日	平成28年11月6日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NP0さつま
所在地	鹿児島県鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成28年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の皆さんが季節を感じて暮らせる様、季節の草花や野菜を常に植え、元気な利用者は水かけを一緒にしたり、野菜の収穫を楽しまれている。季節ごとの行事も計画し外出の機会も取り入れて、日々の生活にも意欲を持ちながら、穏やかな生活が送れるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 当ホームは、閑静な住宅街に位置し、近隣には小学校や病院、飲食店などがあり、法人の住宅型有料老人ホームが隣接している。木造平屋建ての造りで外観もアットホームな印象があり、玄関前や園庭に季節の花々や野菜、びわの木や柿の木があり、利用者が日々散策がてら季節が感じられるよう工夫している。
- 共有スペースは、テーブルや椅子が居心地よく配置され、ソファでテレビ鑑賞しながら思い思いにくつろぐ方がおられたり、職員と談笑しながらお茶を飲んだり、料理の下ごしらえをするなど生活感が漂っている。利用者の平均要介護度は、2.8で、車いす移動が3名おられる中、大半は歩行器や自立歩行されているが、平均年齢は88歳と高齢化している。坪庭や浴室などを囲むように回廊式に居室が配置されており、利用者が迷うこともなく、坪庭を眺めながら廊下を散歩したりしている。
- 代表者は、開設当初から地域との関係構築に力を入れており、町内会に加入し、総会に出席したり地域行事に積極的に参加協力するなど地域との関係性が

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を玄関やフロアに標示して朝の申し送りには唱和して理解と実践につなげている。	理念は、「ゆっくり、やさしく、おだやかに」という標語とともに職員に愛され浸透し、日々のケアを提供する上の礎になっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	町内会に加入しており、回覧板の閲覧、受け渡しは継続している。本年度は地域の防災訓練に参加予定だったが、台風で中止になった。行事等のボランティアの参加はある。	ホーム開設当初から、地域の総会に出席したり、回覧版やボランティアの受入れ、行事への参加や野菜などの差し入れをいただいたり、民生委員がふいに訪ねて来られるなど事業所と地域が日常的に相互に交流している様子が伺える。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	年6回の運営推進会議を通して、家族の方や町内会長・民生委員の方を通じて地域の方へ発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況や活動内容の報告を行い、出された意見や要望には話し合いを持ち、結果については職員ミーティングで検討しサービスの向上を図っている。	会議は、家族が参加しやすい日時や曜日に配慮しており、行政と交互に日程を調整している。家族の参加率も高く運営に対する関心やホームの取り組みに関しても理解があり協力的である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市の担当者と入居者の状況について情報交換や相談を行いながら連携を図り、入居者のサービスの向上に取り組んでいる。</p>	<p>市担当者や福祉担当職員と、電話や面談にて相談や意見交換するなどして協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>年に1～2回、施設内研修に組み入れ職員全体で身体拘束に関心と理解のもとに日常ケアに取り組んでいる。施錠については利用者様の精神面等状況を検討しリスク回避で一時的な場合のみとする。</p>	<p>毎年度内部研修会を開催し、マニュアルの見直しを実施して身体拘束ゼロを目指しケアに取り組んでいる。家族や職員は、転倒しない生活の実現に向けて取り組み、福祉機器も活用しながら、職員が目配り、気配り、心配りを徹底している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部研修で学んだ事を社内研修を通して全ての職員が関心と理解の元に日常の支援で実践している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者は権利擁護について内部研修に組み入れ、入居者の権利擁護について関心と理解の元に日常の支援で実践している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には重要事項説明書により十分な説明を行い、疑問点へ対応し、又解約時も不安がないように十分に説明を行う。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者の意見、要望は日々のケアの中で職員が汲み取る様になっている。家族からは面会時や運営推進会議で意見交換し対応している。意見・要望は職員へ報告共有して運営に活かしている。</p>	<p>利用者には日々の暮らしの中で意見や要望をくみ取るよう心がけており、家族は面会時や推進会議の折に聞いている。外出を円滑に実施するため、下肢筋力強化を希望される家族があり運動メニューや介護方法について検討している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回のミーティング又は随時職員への意見要望を聞く機会を設けて問題解決を図り運営に活かしている。</p>	<p>運営者や管理者はいつでも職員と面談し、意見や提案を聞く機会を設けている。毎月のミーティングでの意見交換、日々の申し送りノートに実情を踏まえ提案するなどして業務の見直しや改善策について検討している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>管理者は職員個々の全ての状況を把握に努め研修や資格取得の機会を与え向上心を持って働けるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月施設内研修会の実施で必要な知識・技術を学んでキャリアアップを図っている。経験や資格がない職員は会社負担で資格取得できるよう支援している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他施設との交流は相互の情報交換によりサービスの質の向上を図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問してコミュニケーションをとったり、家族共に見学して頂き雰囲気を感じていただくようにしている。入居後短期間は表情、様子を見守り安心・安定へ対処している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居判定前に施設見学を勧めて不安・要望等をよく聞き対応の上、納得されて入居できる様信頼感を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様・家族・関係機関等とも必要に応じて連携をとり対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	沢山の経験を持つ人生の先輩として敬意を持ち出来ることはして戴き、出来ないことを支援するとともに支えあう関係を築くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との関係を大切に信頼や安心感のために両者間のパイプ役を意図的に果たしている。面会時には情報提供をし必要時電話で報告相談にて双方を円滑に支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場を大切に隣人の面会やご自宅やご利用者様が過ごされていた地域行事への参加時の外出支援など行う。	受診時に家族と外出がてら墓参りをしたり、買い物を楽しむ方がある。また、地域の行事に家族と参加され交流を継続されている方もいる。ホームは、人や場の関係が途切れることがないように外出支援も大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係には関心を持って把握し相互に支え合える様な関係作りへ支援している。難聴により誤解からトラブル発展へ早期介入を要す場面へ観察を要している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了時の関係を大切に誠実な対処をしている。退所時いつでも相談して頂くようお願いして対応、支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動、表情、また直接の質問により思いや希望等の把握に努めている。意思疎通が困難にはご家族と協力して利用者本位の支援となる様話し合っている。	本人の思いは、会話や表情などを見ながら汲み取り、家族や職員間の情報収集をしながら思いを共有するよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りで本人や家族から生活歴や施設での生活への思いを詳細に聞き取り、馴染みの生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後2週間をめぐりに状況把握に努めている。昼間・夜間の生活の様子や申し送りや記録等で職員間での情報共有により現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向・希望を踏まえて定期的なモニタリングとサービス担当者会議・ミーティングを繰り返し主治医、他関係者がチームとなり情報共有を図り現状に即したケアプラン作成と共に定期的及び状況の変化に応じて適切に見直し修正を行っている。	利用者の視点に立った介護計画を作成するよう努めており、本人の潜在能力が最大限に活かされるよう計画している。また、定期的なモニタリングの実施、計画の見直しを柔軟におこない本人本位の計画と実践を目指している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤、夜勤、各々にケアプランに沿ってケアを提供し利用者の反応や観察事項を個別記録に記載し職員間の情報資料として又ケアの見直しやプランの修正に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況の変化やニーズに応じて相談に対応し、柔軟な支援体制に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に長寿支援センター・民生委員・町内会長・消防署等より理解と協力をいただき、安全で豊かな生活ができるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医との連携を元に本人・家族の納得の上で継続的に安定して医療が受けられる様に支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医になっており、協力医療機関とオンコール体制がとれ、24時間適切な医療が受けられるよう取り組んでいる。緊急時の病院受診については予め家族から同意書にて意志確認し、他科受診は家族の協力体制がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護職員は日常のケアの中で健康上の問題の気づきや情報を看護職員へ報告し、利用者の健康生活へ協力して支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>利用者の入退院に際しては家族と共に医療機関との連携をとり安心して医療が受けられる様、又早期退院へ医療機関との連携を密に行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>利用の契約時に重度化や終末期の対応について利用者・家族の意向も確認して又施設の方針を説明し同意を得てサービスを提供している。かかりつけ医や訪問診療医とも連携しチームが一丸となって可能な限りの支援対応の体制づくりをしている。</p>	<p>重度化や終末期の対応についての指針があり、かかりつけ医や本人、家族、関係者間で十分に話し合い本人、家族の思いに寄り添い安心して最期が迎えられるようチームケアにて取り組んでいる。運営者は、指針の内容の精査が必要であると考えている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時の対応はマニュアル化して職員共有事項としている。応急手当や初期対応について施設内研修でも組み入れ繰り返し実践力を養う努力をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の消防訓練を実施し消防署の指導の元職員が意識を持って取り組んでいる。今回は地震時の対応も取組んだ。また地域には利用者の人数・状況等連携をとって災害時は協力体制できている。</p>	<p>地域の協力体制を確保し、法人の協力も万全である。備蓄もあり、緊急用に井戸も完備している。年2回の避難訓練を実施、内部研修でも「防災訓練」として研修を実施し、日頃から消火器の設置点検、非常口の安全点検を徹底して防災意識を高めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し言葉遣いや対応について繰り返し職員は相互に注意し合い気をつけている。	年長者として敬い失礼のないよう声かけには気をつけている。居室の扉やカーテンは閉める、排泄時は扉の外で待つなど徹底している。また、職員が不適切な声かけをしないよう互いに気をつけ注意し改め再発防止に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のケアの中で本人の意思を尊重し、意思快走声かけ、見守り意思の表出へ支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを最優先しその人らしく自主性を大切に今日一日を過せる様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	散髪等は気遣い声かけし美容室へ訪問して頂いている。ハンドセラピーやメイクの機会を設けて喜ばれている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の好みへ声かけし食への関心を引き出している。元気な方へは調理の下ごしらえに参加していただき生き生きとした様子に接している。	献立は、担当者が作成し庭で採れたピロや柿などを献立に取り入れている。視覚に障害がある方の食器の入れ替えをする程度で食事介助者はない。芋の天ぷらなどの手作りおやつ、外食は家族と楽しんでいる。地域や家族の方の差し入れ、菜園の野菜を料理に取り入れたり、調理の下ごしらえや下膳を手伝われる方もおられる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後に食事量のチェック、記載し問題あれば医師に報告対処している。入居時食習慣の把握し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の口腔内の状況を把握しその能力に応じ声掛け、見守り又は介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人1人の排泄の状況を把握し原則としてトイレでの排泄を自立へ支援している。夜間は移動の安全へPWCを使用、安全へ支援している。	なるべくトイレで排泄できるよう支援しているが、夜間や必要に応じてポータブルを使用される方もあるため、臭いなど衛生面には十分に配慮している。便秘がちな利用者のために、朝食時乳製品を提供したり体操を取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のバイタル測定時又介助時に排便の状態を把握し記載して便秘傾向へ水分、食事量、腹部状態等観察し医師へ相談、対処している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回の個浴が基本で朝のバイタル本人の体調の訴え等踏まえ声掛けにより入浴を楽しまれている。入浴中は状況により介助にて安全を図っている。	浴槽は、ゆったり複数入れる広さであるが、マンツーマンにて対応している。入浴を楽しみにしておられる方ばかりで、職員は体調に配慮しながら個々に応じた入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人のその時の状況により昼食後や適宜に休息をとられている。夕食後は各々に就寝前へ支援し安眠へ見守っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人の服薬情報により管理し理解し症状の変化ある時は医師への報告対処により服薬に安全へ支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力に応じて又、本人の意思を尊重し家事参加や何か役割を持つことで生きがいとなる様声掛け見守りを支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体力的にも日常的な外出は困難な利用者が多くなっている。元気な利用者は希望を取り入れてドライブ、コーヒー店へ出かけている。ご家族様が同行の受診日に外食等の協力もある。	日常は、ホームの玄関先や駐車場に出て日光浴をしたり、近隣を散歩するなどしている。特に春と秋は外出の頻度も多く、天候を見ながらソーマン流しやみかん狩りを楽しんだり、ショッピング、ドライブ、和菓子屋でコーヒーを嗜むなど家族とも外出をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現金の管理は紛失等の点より入居時にご家族と相談の上本人の所持は行っていない。入居者より買い物の希望ある時は預り金より職員が対処している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人から電話の要望ある時は施設の電話で職員の介入で支援している。その時々々の環境や条件により声掛けや代筆により支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間にはテーブルやソファがおかれ思い思いの場所で過せる様に工夫されている。玄関前は草花が植えられ窓外の草花を見て職員も季節の話題に触れるなど四季を感じながら過ごすことができる。</p>	<p>木造平屋で坪庭を中央に配し居室が取り巻く回廊形式になっており、リビングダイニングのテーブルの配置が特徴的である。ソファでテレビを観るなど思い思いに過ごせるホールから庭の柿の木、ビワの木、季節の花々が眺められ、利用者に季節を感じさせてくれている。壁には、季節感のある装飾やちぎり絵、切り絵などが掲示され温かみのある居住空間である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有空間にはソファが置かれ気の合う利用者が会話が出たりテレビや音楽を楽しまれている。玄関先にも椅子が置かれ一人になれる空間が工夫されている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はベッド・タンス・洗面台・エアコンは設備で整っている。家具の配置は本人・家族で決めている。他、馴染みの家具・置物は持ち込み自由で居心地良く過せる様に工夫している。	居室の窓外には、夏場はにがうりなどのグリーンカーテンが日差し除けに活用されている。扉をカーテンに変更し音への配慮をした方があった。移動の安全性を担保するため、外付けの手すりを設置している方が数名おられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は安全に過せる様に手すりを設置しバリアフリーのつくりになっている。トイレ・浴室は表示して迷わない様に配慮している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない